

男女共同参画社会に関する意識
調査報告書

《概要版》

平成26年7月

那 須 塩 原 市

目 次

I	調査の概要	1
II	調査対象者の属性	2
III	調査結果	4
1	男女平等について	4
2	男女の役割意識について.....	7
3	男女の地域・社会参画について	8
4	DVやセクハラについて	10
5	ワークライフバランス(仕事と生活の調和)について.....	12
6	市が力を入れるべき取り組み	14
7	知っている市の施策	15

I 調査の概要

1. 調査目的

那須塩原市における男女共同参画社会の形成状況や市民の意識を明らかにするとともに、平成24年3月に策定した「第2次那須塩原市男女共同参画行動計画(平成24年度～28年度)」の評価目標値のうち市民意識に関する項目について、調査開始の平成17年、及び中間調査(平成20年)、基準年次(平成22年)からの意識変化の状況を把握し、今後の事業展開の参考とすることを目的に実施しました。

2. 調査内容

- (1) 男女平等について
- (2) 男女の役割意識について
- (3) 男女の地域・社会参画について
- (4) DVやセクハラについて
- (5) ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について
- (6) 男女共同参画社会づくりについて

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 市内全域
- (2) 調査対象 20歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000人
- (4) 抽出方法 無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送による調査用紙送付及び回答
- (6) 調査時期 平成25年11月10日(日)～12月1日(日)

4. 回収結果

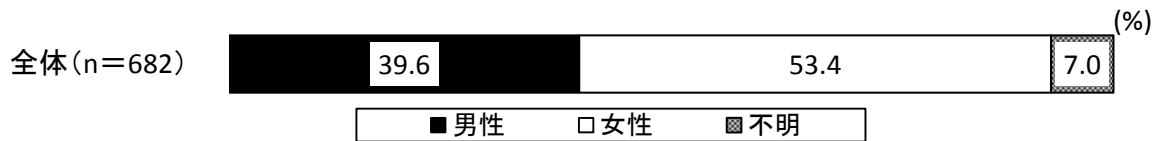
性別	配付数	回収数	回収率
男	1,000	270	27.0%
女	1,000	364	36.4%
不明		48	
計	2,000	682	34.1%

5. 報告書の見方

集計結果で示す数値は、百分率(%)で表示した。小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計値は100%とならない場合がある。

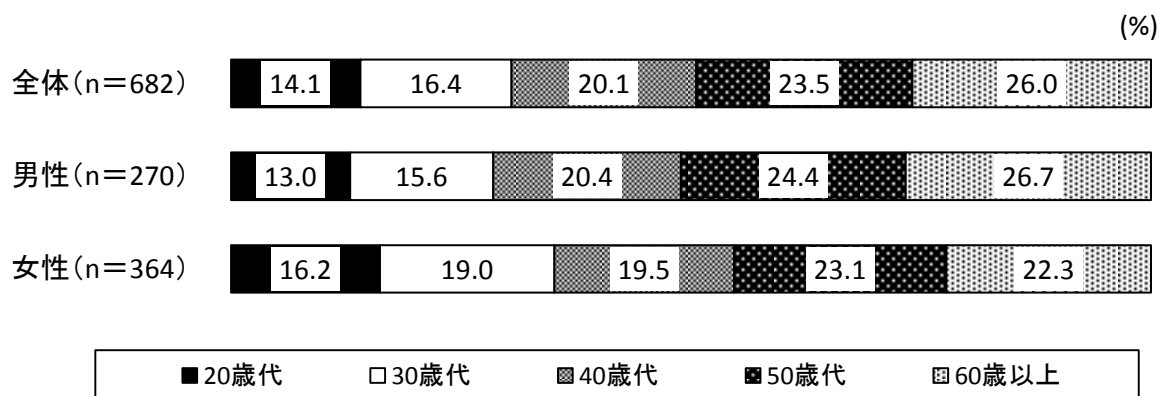
II 調査対象者の属性

1. 性別



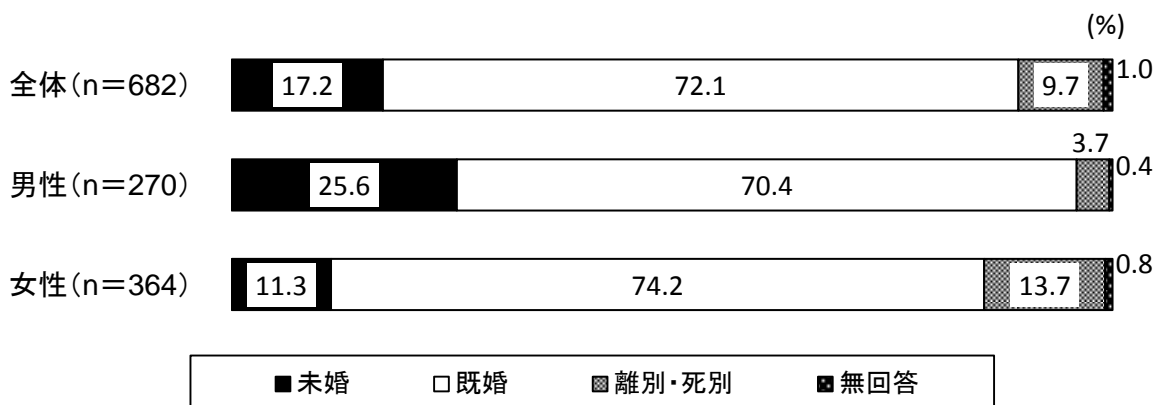
回答者の性別は、「男性」39.6%、「女性」53.4%となっている。

2. 年齢別



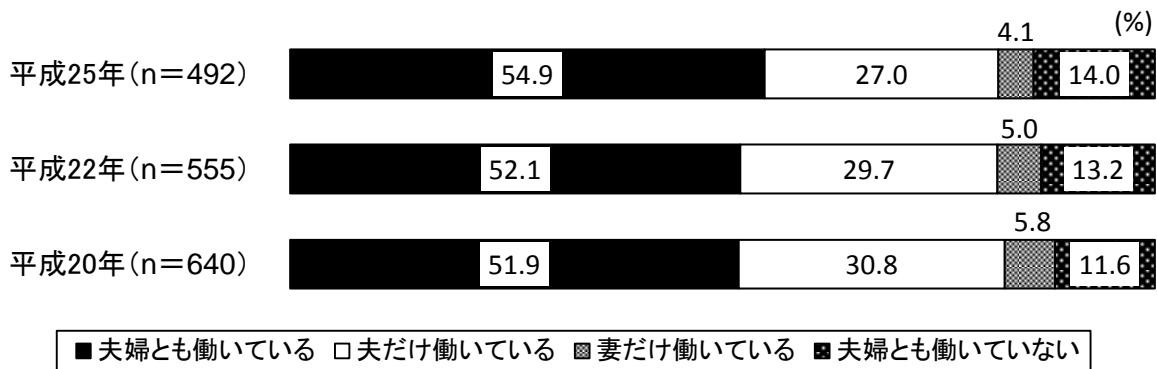
アンケートを抽出した対象者は、各年代200名ずつ抽出している。回答者の年齢は、「60歳以上」(26.0%)が最も多く、次いで「50歳代」(23.5%)と続き、若い世代よりも年齢の高い世代のほうが回答割合が高くなっている。

3. 結婚別



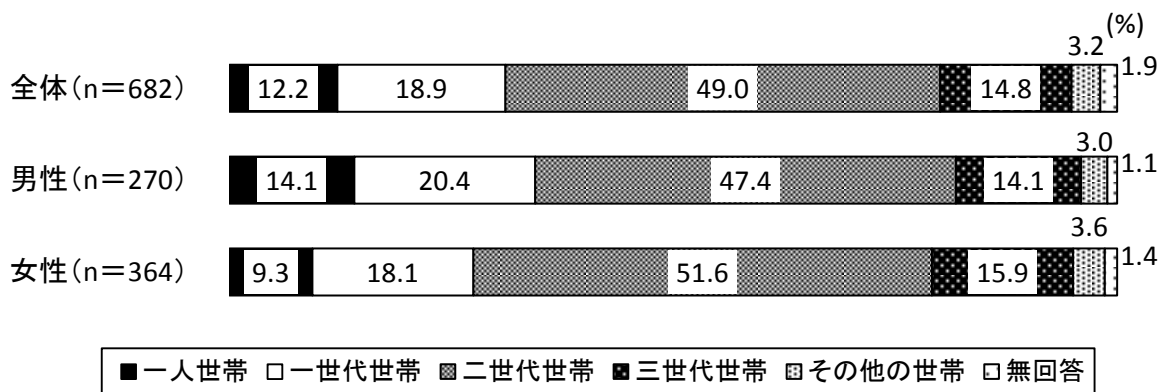
回答者の結婚状況は、男女ともに「既婚(事実婚を含む)」の割合が最も高く、次いで男性は「未婚」(25.6%)、女性は「離別・死別」(13.7%)とそれぞれ続いている。

4. 働き方



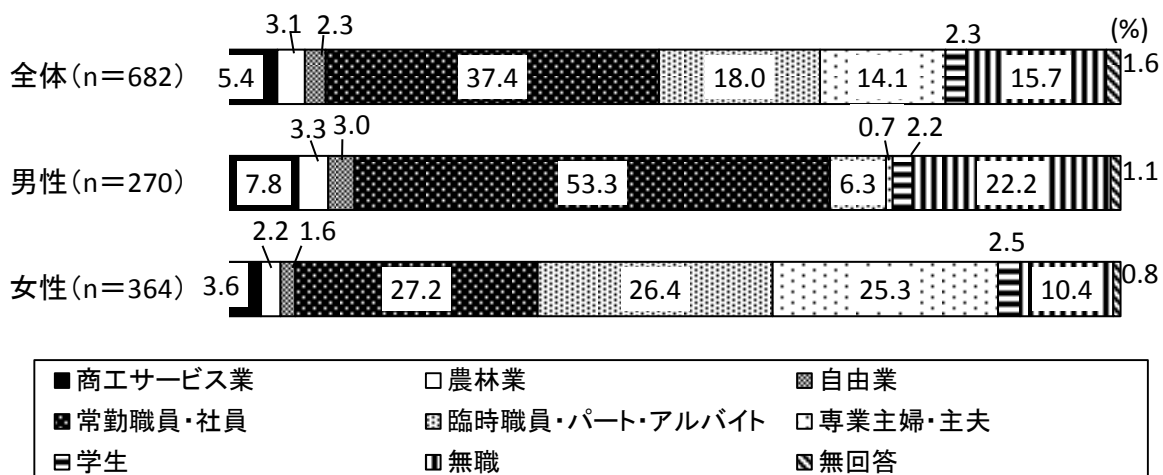
回答者の働き方は、前回調査とほぼ同じ結果となっている。「夫婦とも働いている」(54.9%)が前回に比べ2.8ポイント多くなっており、「夫だけ働いている」(27.0%)が2.7ポイント少なくなっている。

5. 世帯構成



世帯の状況では、男女とも「二世世代世帯(親と子)」の割合が最も高く、次いで「一世代世帯(夫婦のみ)」が、「男性」20.4%、「女性」18.1%とそれぞれ続いている。

6. 職業



男性の職業は、「常勤職員・社員」が53.3%と半数を超えており、次いで「無職」が22.2%と続いている。女性の職業は、「常勤職員・社員」が27.2%と最も多く、「臨時職員・パート・アルバイト」と「専業主婦」はほぼ同じ割合になっている。

Ⅲ 調査結果

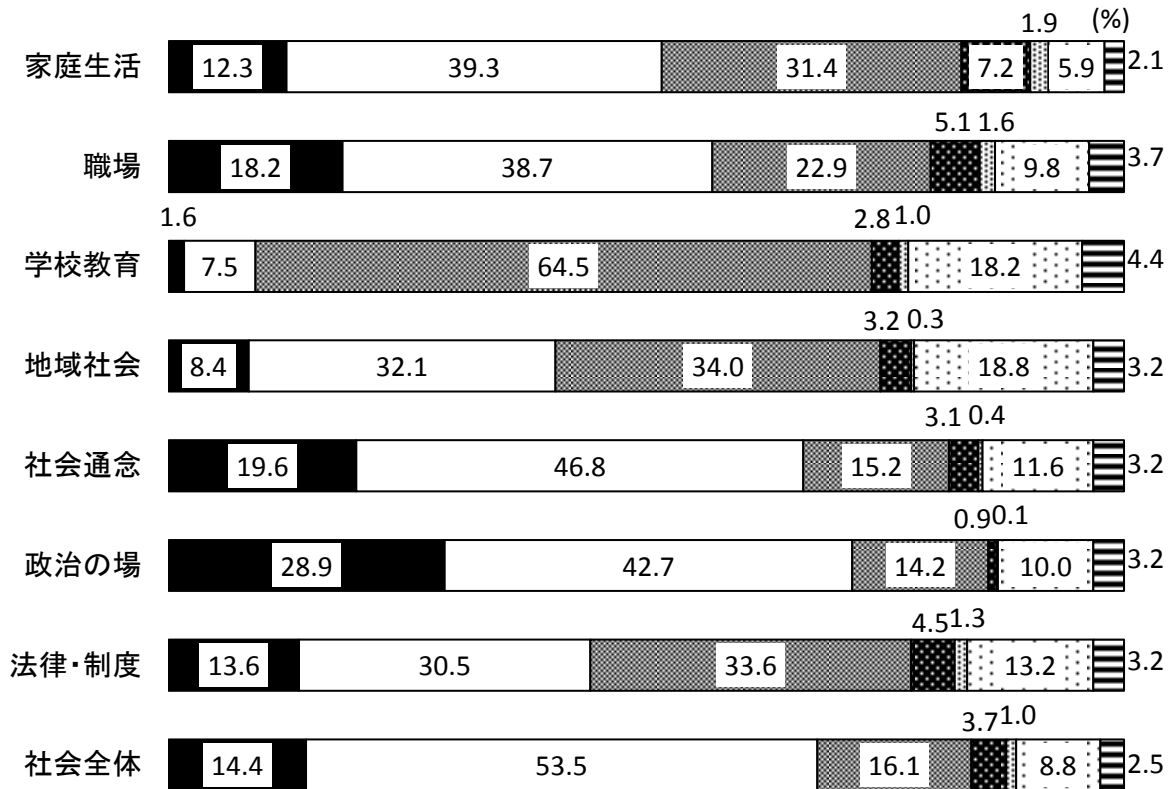
1. 男女平等について

【行動計画の評価目標】

項目	調査初年度	中間	基準年度	現状	目標年度
	H17	H20	H22	H25	H28
学校教育において男女の地位が平等になっていると感じる人の割合(基本目標Ⅰ)	62.9%	64.5%	65.0%	64.5%	70.0%
社会全体の中で男女の地位が平等になっていると感じる人の割合(基本目標Ⅱ)	15.6%	17.1%	18.0%	16.1%	23.0%
家庭生活において男女の地位が平等になっていると感じる人の割合(基本目標Ⅳ)	26.1%	29.5%	28.6%	31.4%	48.0%
職場において男女の地位が平等になっていると感じる人の割合(基本目標Ⅳ)	18.9%	22.1%	20.3%	22.9%	23.0%

【今回の調査結果】

問1 あなたは、現在、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の(1)～(8)のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものを1つずつお選びください。(○は1つずつ)

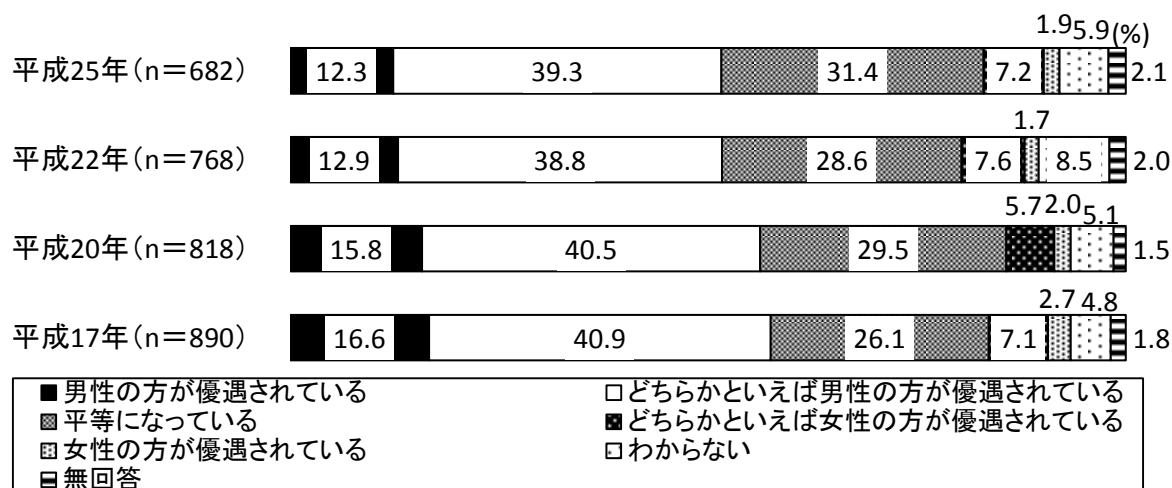


■ 男性の方が優遇されている	□ どちらかといえば男性の方が優遇されている
▣ 平等になっている	■ どちらかといえば女性の方が優遇されている
▤ 女性の方が優遇されている	□ わからない
▥ 無回答	

男女の地位の平等感について、7つの分野と社会全体で、平成17年から調査している。今回の調査においても、「平等になっている」と答えた人の割合が50%を超えたのは「学校教育」(64.5%)だけで、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含めた「男性が優遇されている」と答えた人の割合は、「家庭生活」(51.6%)、「職場」(56.9%)、「社会通念」(66.4%)、「政治の場」(71.6%)の4つの分野と「社会全体」(67.9%)で50%を超えている。

【これまでの調査結果との比較】

(1) 家庭生活



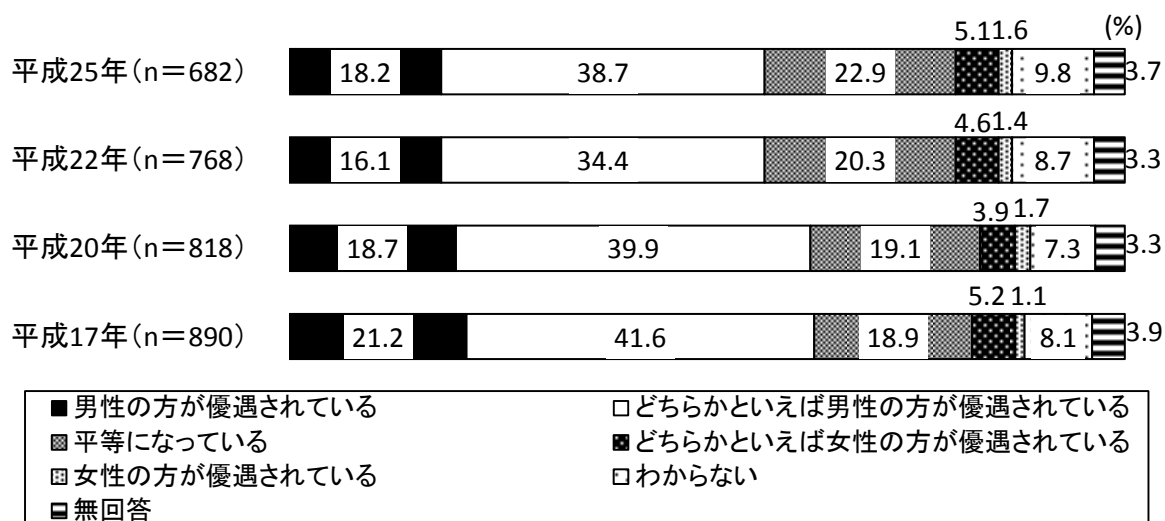
「家庭生活」の分野で、「平等になっている」と答えた人の割合が平成22年調査からは2.8ポイント増加、17年調査からは5.3ポイント増加し、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含めた「男性が優遇されている」と答えた人の割合は、17年調査から5.9ポイント減少している。

○栃木県「男女共同参画社会に関する意識調査」(平成21年11月)

「平等になっている」29.5%

○内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成21年10月) 「平等」43.1%

(2) 職場



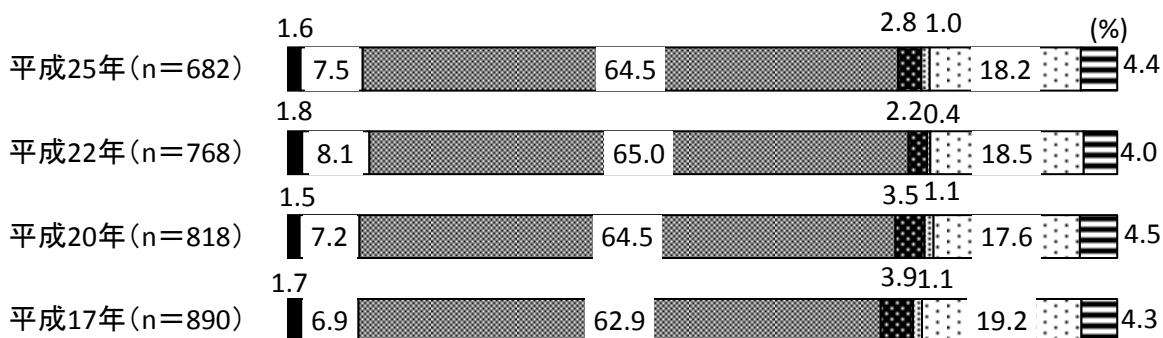
「職場」の分野で、「平等になっている」と答えた人の割合が平成22年調査からは2.6ポイント増加、17年調査からは4ポイント増加し、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含めた「男性が優遇されている」と答えた人の割合は、平成22年調査から6.4ポイント増加している。

○栃木県「男女共同参画社会に関する意識調査」(平成21年11月)

「平等になっている」17.2%

○内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成21年10月) 「平等」24.4%

(3) 学校教育

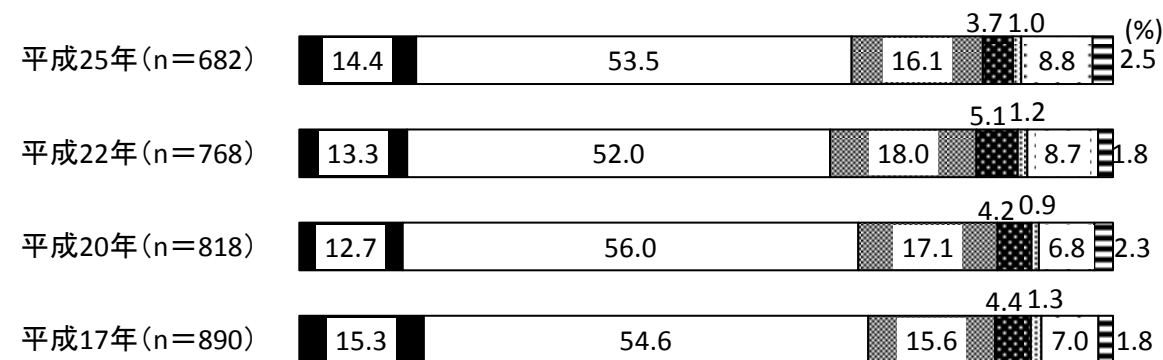


■ 男性の方が優遇されている □ どちらかといえば男性の方が優遇されている
 ■ 平等になっている ■ どちらかといえば女性の方が優遇されている
 ■ 女性の方が優遇されている □ わからない
 ■ 無回答

「学校教育」の分野において、「平等になっている」は平成22年調査まで増加していたが、今回の調査で0.5ポイント減少した。しかし、7つの分野の中では最も「平等になっている」の割合が多く、他分野に比べ男女平等が進んでいることが推測できる。

- 栃木県「男女共同参画社会に関する意識調査」(平成21年11月) 「平等になっている」50.9%
- 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成21年10月) 「平等」68.1%

(4) 社会全体



■ 男性の方が優遇されている □ どちらかといえば男性の方が優遇されている
 ■ 平等になっている ■ どちらかといえば女性の方が優遇されている
 ■ 女性の方が優遇されている □ わからない
 ■ 無回答

「社会全体」で、平成25年と22年の調査を比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合が1.9ポイント減少し、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含めた「男性が優遇されている」と答えた人の割合は2.6ポイント増加している。

- 栃木県「男女共同参画社会に関する意識調査」(平成21年11月) 「平等になっている」18.5%
- 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成21年10月) 「平等」23.2%

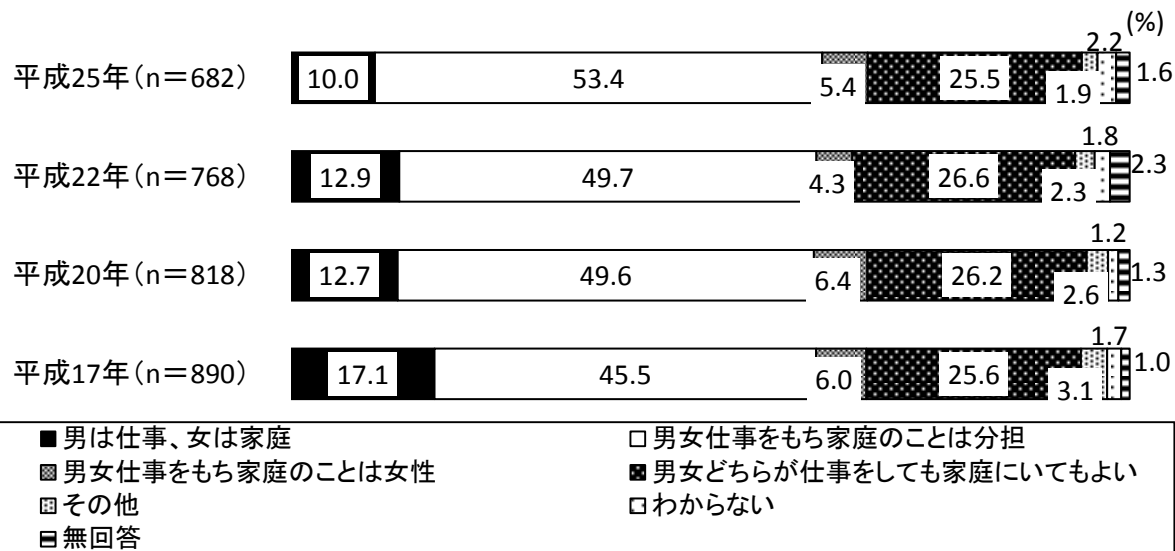
2. 男女の役割意識について

【行動計画の評価目標】

項目	調査初年度	中間	基準年度	現状	目標年度
	H17	H20	H22	H25	H28
男は仕事、女は家庭といった性別による役割を固定する考え方を持つ人の割合 (基本目標 I)	17.1%	12.7%	12.9%	10.0%	8.0%

【今回とこれまでの調査結果の比較】

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つだけお選びください。(○は1つだけ)



男女の役割意識について、平成25年と22年の調査を比較すると、「男は仕事、女は家庭」が2.9ポイント減少、平成17年からは7.1ポイント減少と大きな変化が見られる。これに対し、「男女仕事をもち家庭のことは分担」と考える人の割合は、年を追うごとに増加している。

○栃木県「男女共同参画社会に関する意識調査」(平成21年11月)

「男は仕事、女は家庭」 15.1%

○内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成21年10月)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきに賛成」 10.6%、「どちらかといえば賛成」 30.7%

3. 男女の地域社会参画について

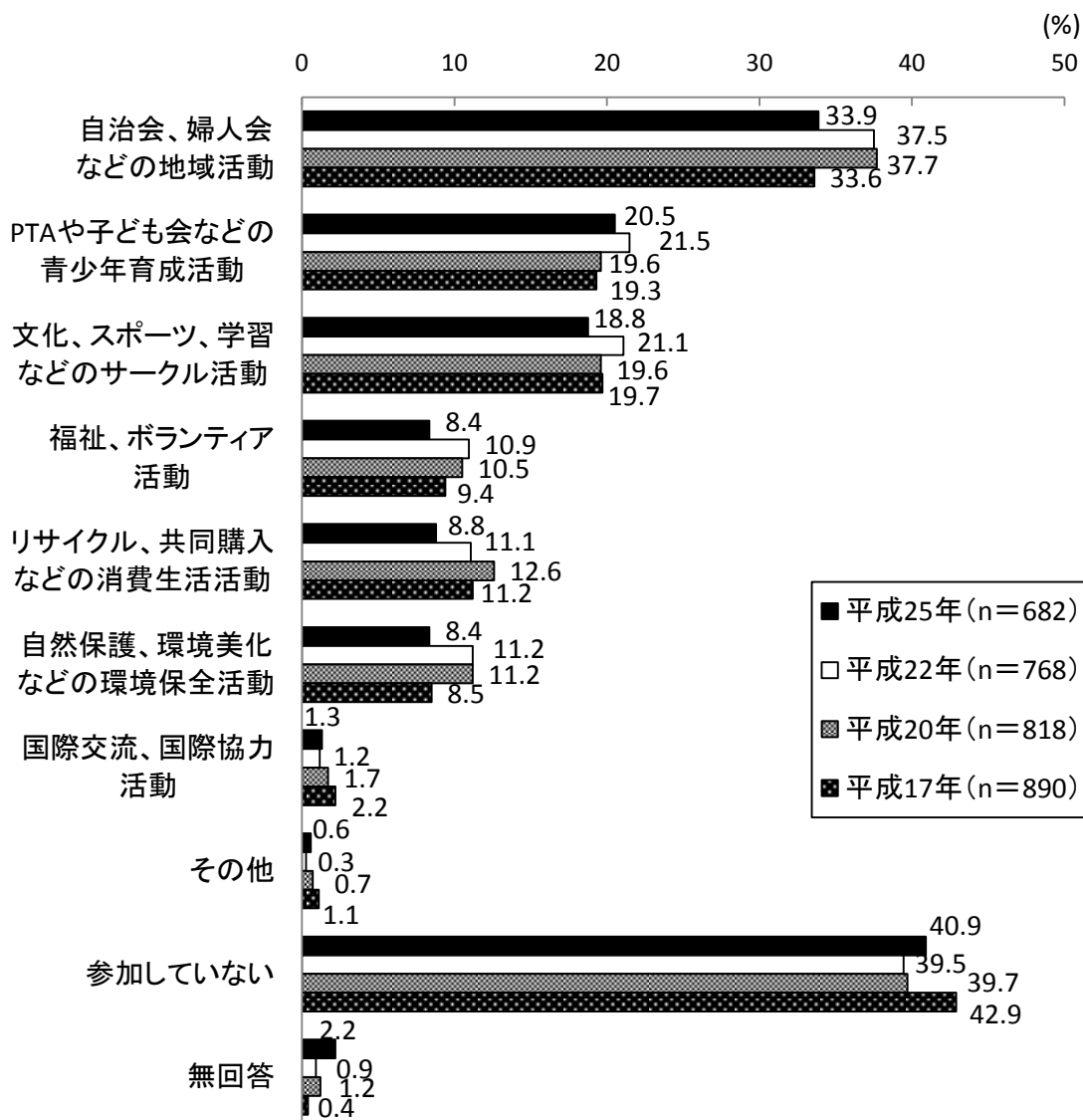
【行動計画の評価目標】

項目	調査初年度	中間	基準年度	現状	目標年度
	H17	H20	H22	H25	H28
地域・社会活動に参加していない人の割合 (基本目標Ⅲ)	42.9%	39.7%	39.5%	40.9%	35.0%

【今回とこれまでの調査結果の比較】

(1) 地域・社会参画の状況

問5 あなたは、次にあげるような活動に参加していますか。あてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)



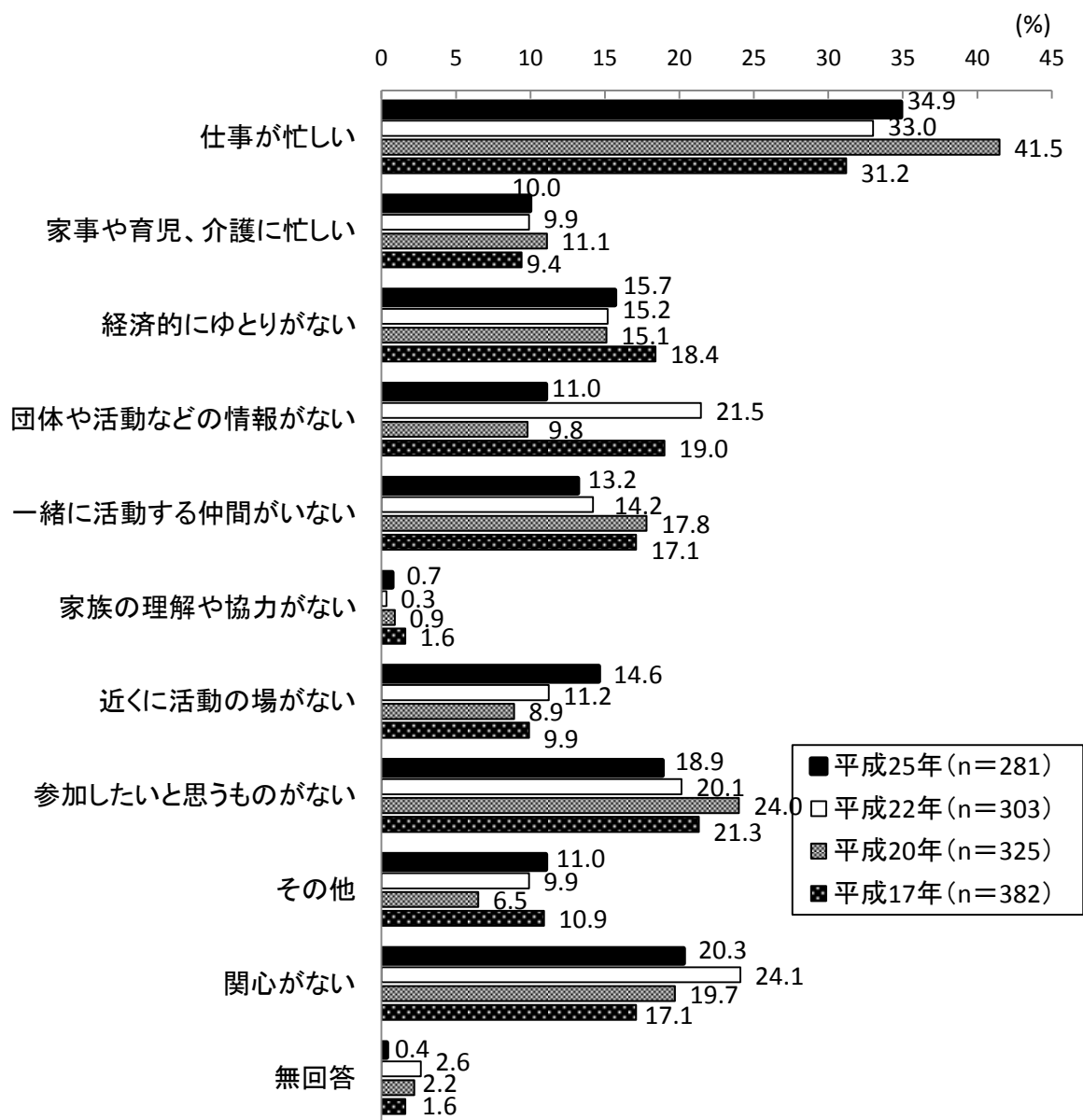
上記の活動について、「自治会、婦人会などの地域活動」の割合が最も多いが、平成22年調査からは3.6ポイント減少している。他の活動においても、「国際交流・協力活動」、「その他」以外は22年調査に比べ減少している。

○栃木県「男女共同参画社会に関する意識調査」(平成21年11月) 「参加していない」 37.8%

(2) 地域・社会参画していない理由

問6 問5で「9. 参加していない」を選んだ方におたずねします。

あなたが上記のような活動に参加していないのはなぜですか。次の中から、あてはまるもの2つまでお選びください。(○は2つまで)



地域・社会活動に参加していない理由で、「仕事が忙しい」(34.9%)が最も多く、次いで「関心がない」(20.3%)となっている。また、平成25年と17年の調査を比べると、「近くに活動の場がない」が4.7ポイント増加している。

○栃木県「男女共同参画社会に関する意識調査」(平成21年11月)「仕事が忙しい」 33.7%
「参加したいと思うものがない」 22.2% 「関心がない」 9.2%

4. DVやセクハラについて

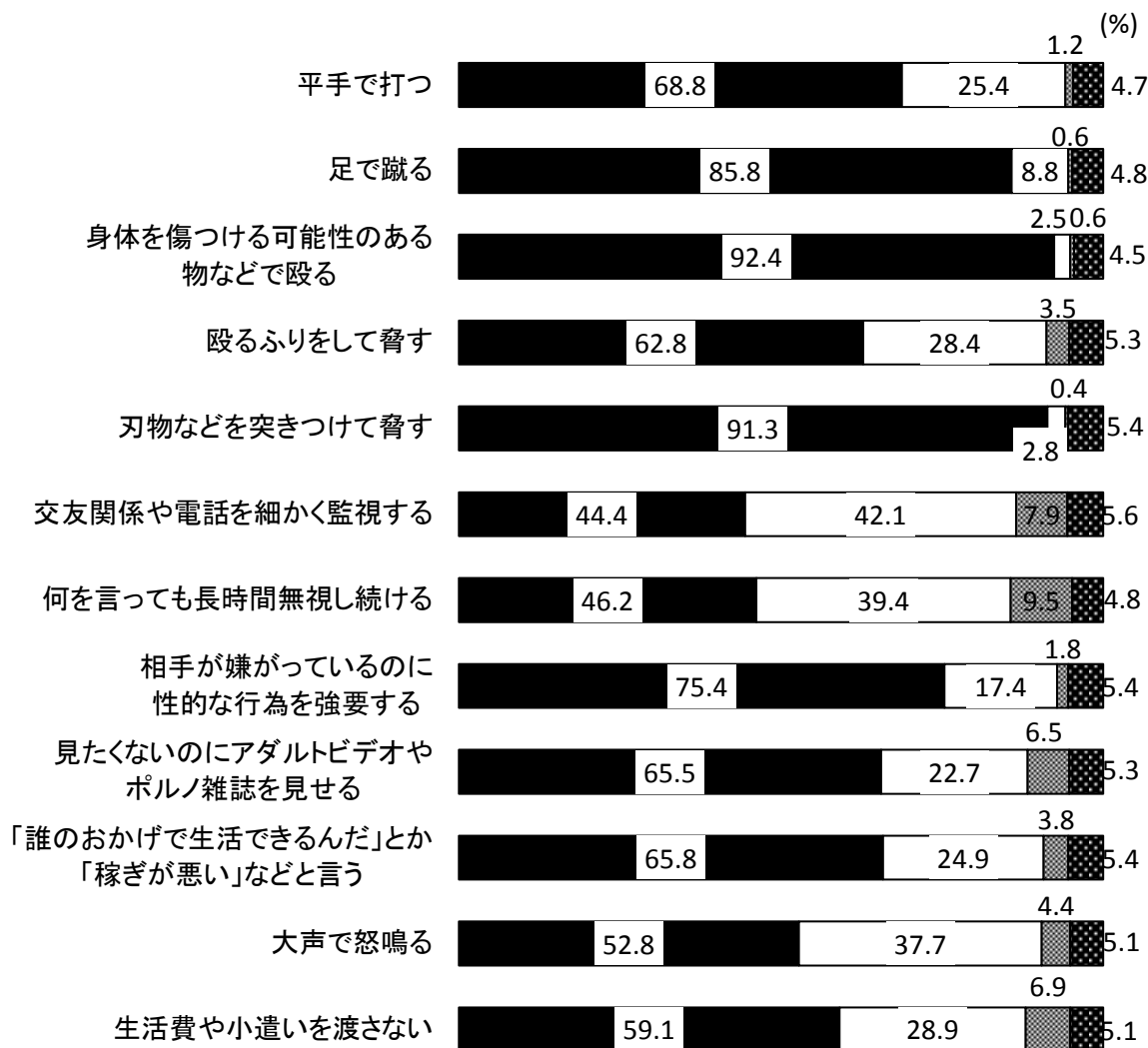
【行動計画の評価目標】

項目	調査初年度	中間	基準年度	現状	目標年度
	H17	H20	H22	H25	H28
夫婦間における「平手で打つ」を暴力として認識する人の割合（基本目標Ⅱ）	未実施	未実施	61.7%	68.8%	100.0%

【今回の調査結果】

(1)DV(配偶者や恋人からの暴力)について

問7 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーや恋人の間で行われた場合、それは暴力だと思いますか。それぞれについてお答えください。(○は1つずつ)



■ どのような場合でも暴力にあたると思う

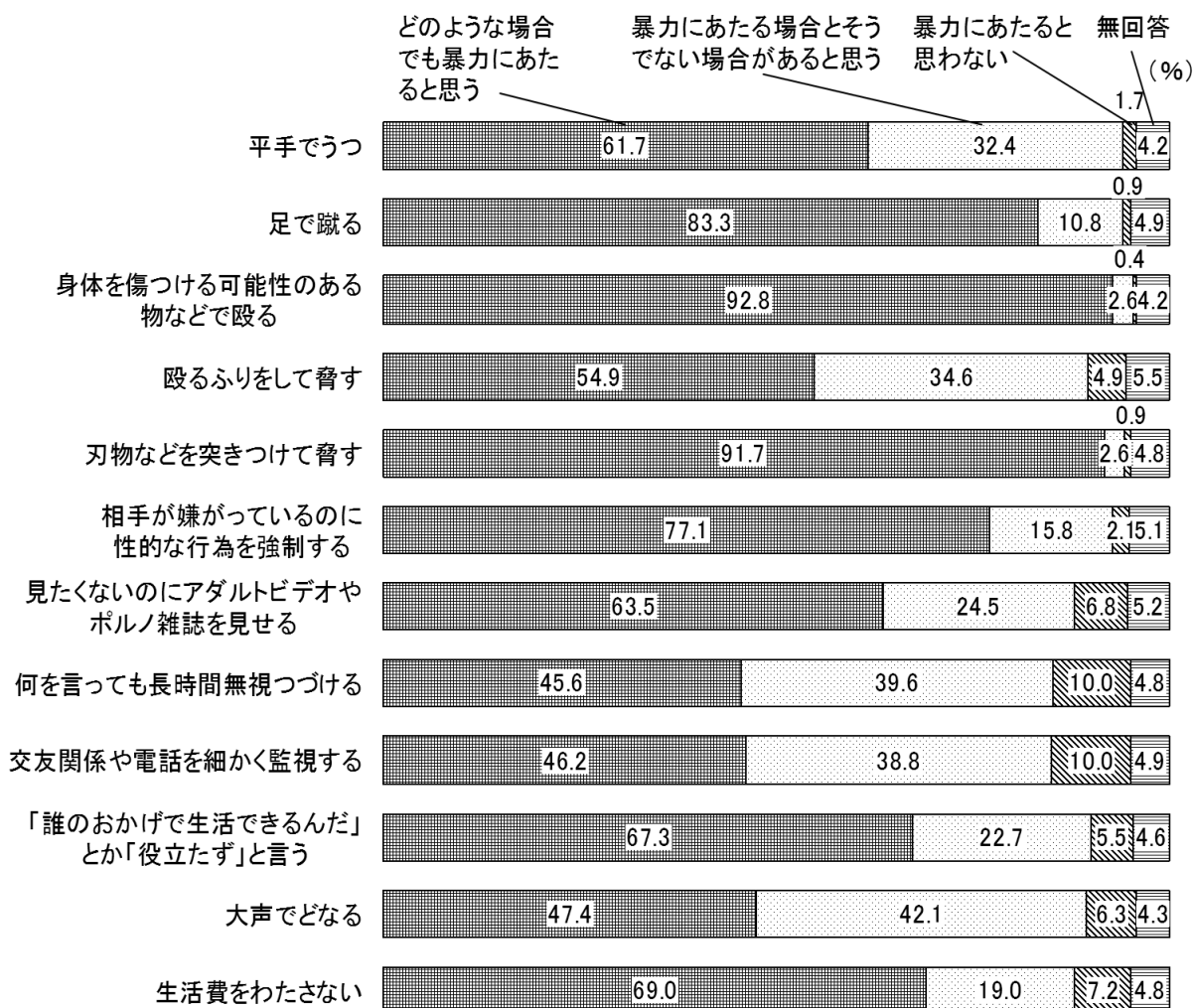
□ 暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う

▣ 暴力にあたると思わない

■ 無回答

夫婦や恋人の間でのどのような行為が暴力であると思うかについて、「どのよう場合でも暴力にあたる」では、「身体を傷つける可能性のある物などで殴る」が92.4%と最も多く、「刃物などを突きつけて脅す」91.3%、「足で蹴る」85.8%、「相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する」75.4%、「平手で打つ」68.8%などと続いており、その他の行為も50%を超えるか、近い結果となった。

【前回調査(平成22年)との比較】

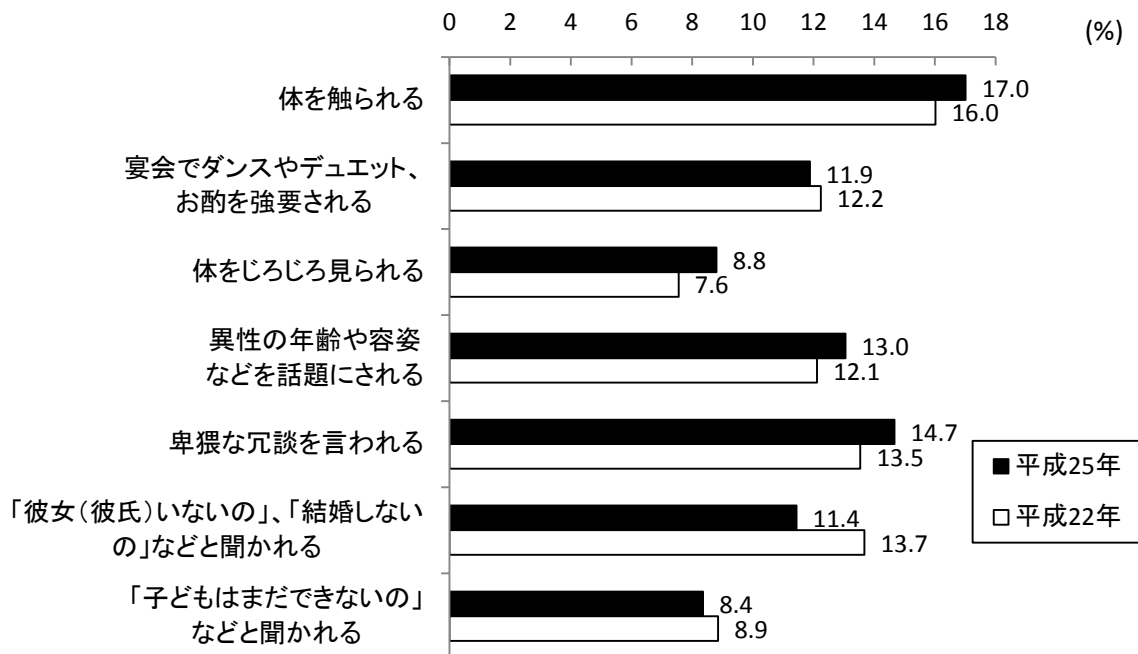


夫婦や恋人の間でのどのような行為が暴力であると思うかについて、平成25年と22年の調査を比較すると、「どのような場合でも暴力にあたる」で「平手で打つ」は、7.1ポイント、「殴るふりをして脅す」は、7.9ポイント増加している。これに対し、「生活費を渡さない」を「どのような場合でも暴力にあたる」と答えた人の割合は、9.9ポイント減少している。

(2) 職場でのセクハラ

問9 あなたは、次のようなことでセクハラだと感じたことがありますか。またそれはどこで感じましたか。(1)～(7)のそれぞれについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

【今回調査と前回調査の比較】



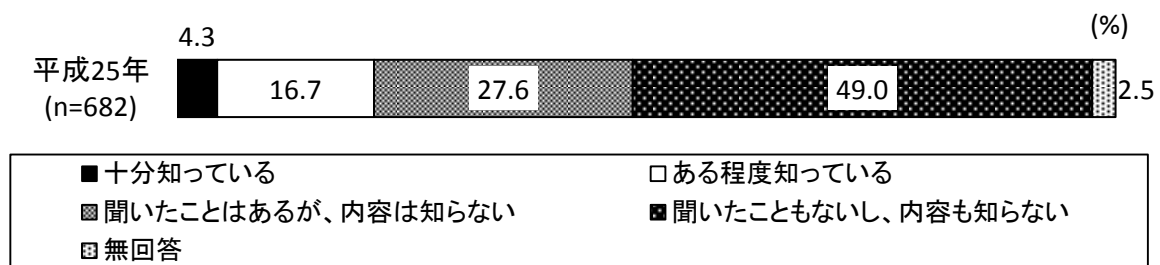
セクハラに関し「職場で」、「地域で」、「その他」と感じたことがある場所別、また上記のセクハラ内容別に調査した。

職場でセクハラと感じたことがあると答えた人で、平成25年と22年の調査を比較すると、「体を触られる」は1ポイント、「卑猥な冗談を言われる」は1.2ポイント増加しているが、全体的に大きな変化は見られない。

5. ワークライフバランス(仕事と生活の調和)について

(1) ワークライフバランスの認知度

問10 あなたは、ワークライフバランスについて知っていますか。次の中からあてはまるものを1つだけお選びください。(○は1つだけ)

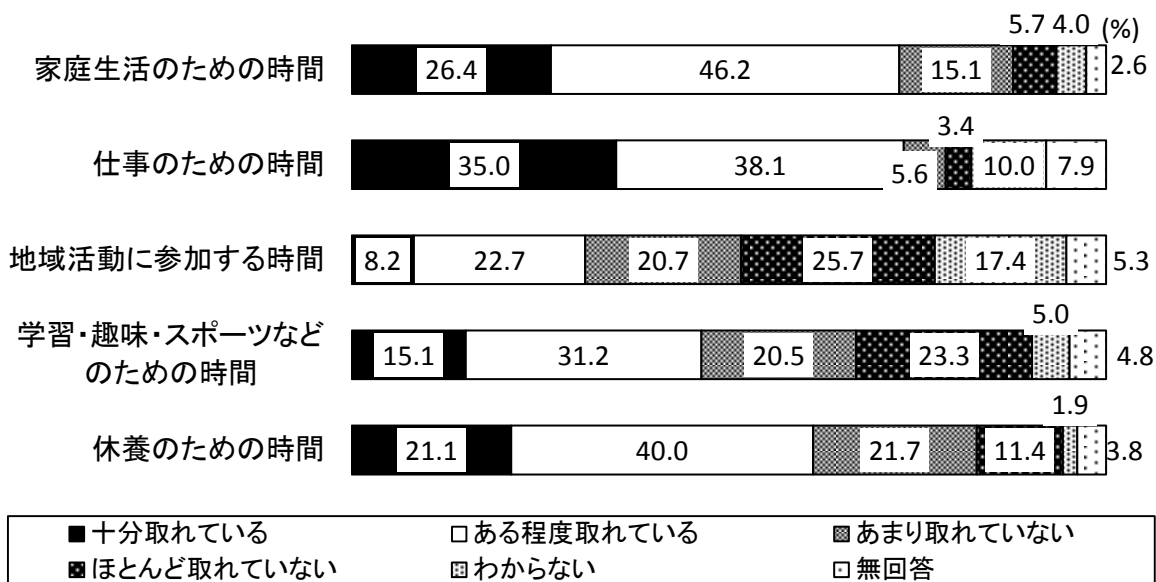


今回、新たな項目として、ワークライフバランスについて調査した。ワークライフバランスについて、「十分知っている」、「ある程度知っている」と答えた人の合わせた割合は、21.0%となり、これに対し「聞いたこともないし、内容も知らない」と答えた人の割合は、49.0%と約半数を占めている。

ワークライフバランスとは、「仕事と生活の調和」の意味であり、仕事や家庭・地域生活などに、やりがいや充実感を感じ、自ら希望する選択・生き方ができること。

(2) ワークライフバランスの現実

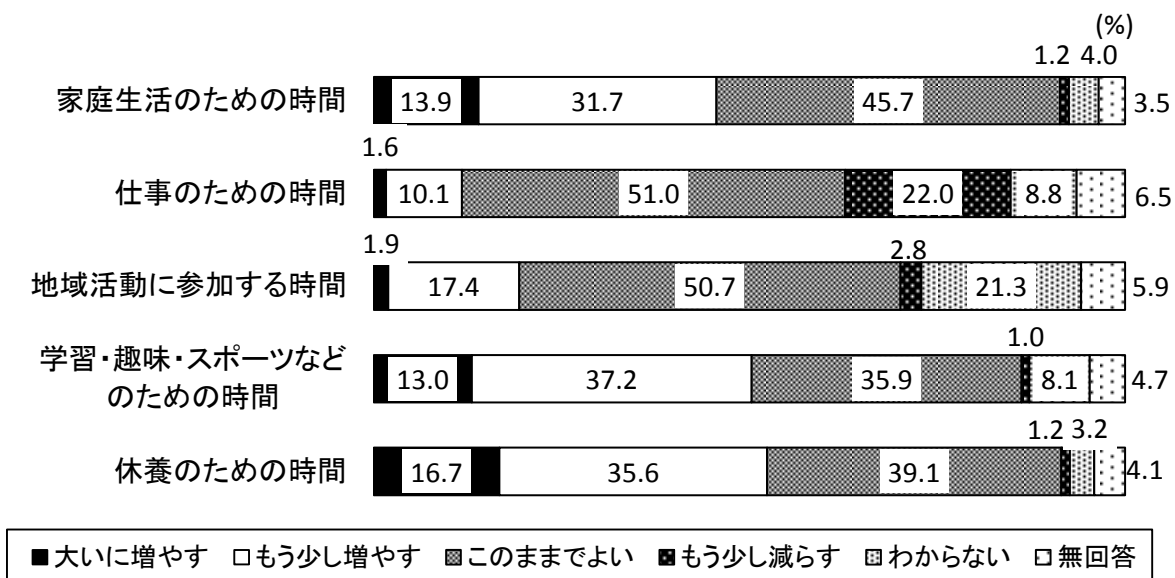
問11(1) あなたは、日常生活の中で、次の(1)～(5)について、満足する時間が取れていますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。(〇は1つずつ)



日常生活の5項目において、「十分取れている」、「ある程度取れている」と答えた人の合わせた割合で7割を超えているのは、「家庭生活のための時間」と「仕事のための時間」の2項目となった。これに対し、「ほとんど取れていない」と答えた人の割合で最も多いのは、「地域活動に参加する時間」(25.7%)である。

(3) ワークライフバランスの理想

問12(2) あなたは、日常生活の中で、次の(1)～(5)について、どのような時間の使い方をすれば、いきいきと充実した生活を送ることができると思いますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。(〇は1つずつ)

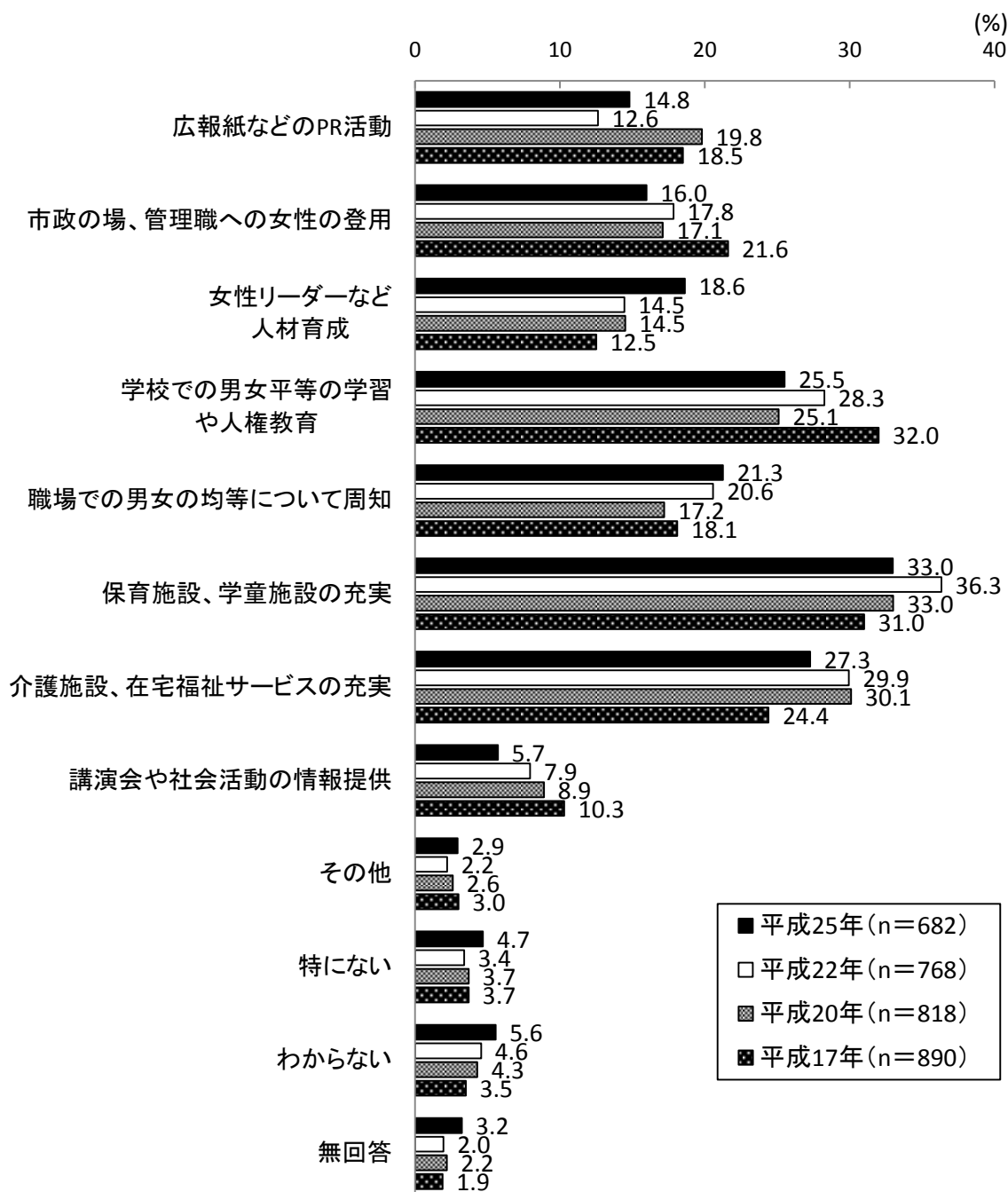


日常生活の5項目における理想の時間の使い方について、「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、「休養のための時間」が52.3%と最も多く、次いで「学習・趣味・スポーツなどのための時間」が50.2%となっている。これに対し、「仕事のための時間」は「もう少し減らす」が22.0%となり、5項目の中で最も多い値となった。

6. 市が力を入れるべき取り組み

【今回とこれまでの調査結果の比較】

問13 あなたは、男女共同参画社会を築いていくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から2つまでお選びください。(〇は2つまで)

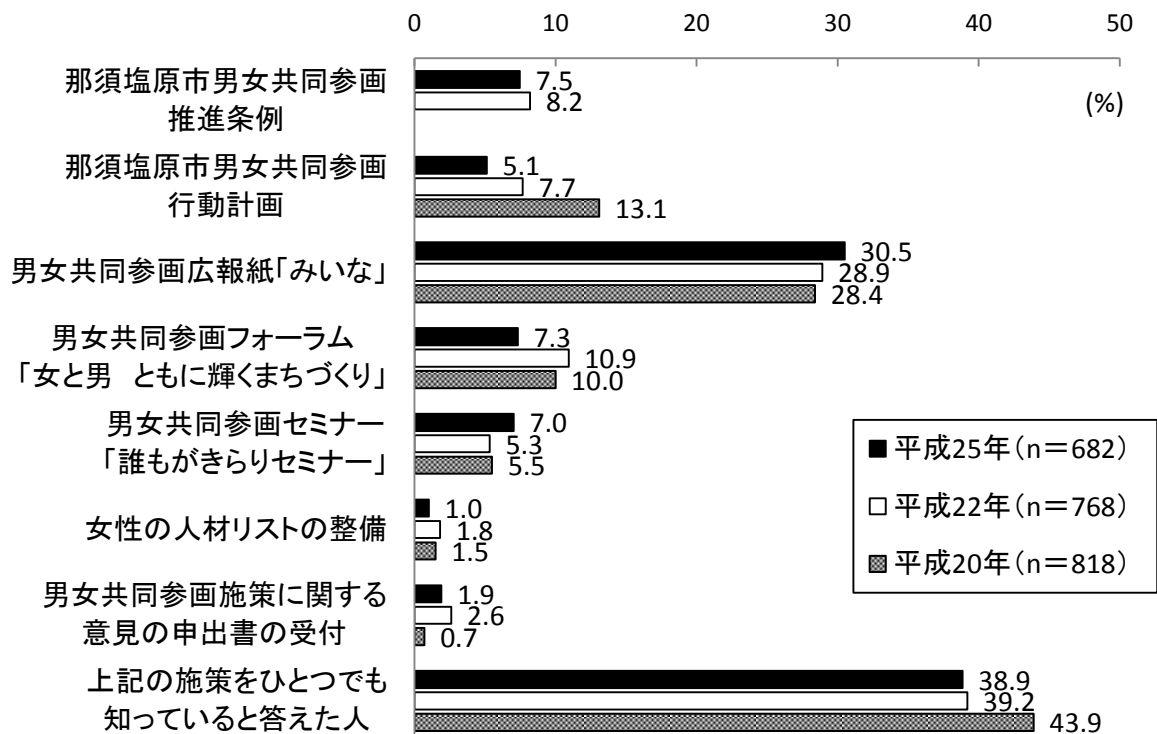


男女共同参画社会の実現に向け、市が力を入れるべき取り組みについて、平成22年調査同様、「保育施設、学童施設の充実」(33.0%)が最も多く、次いで「介護施設、在宅福祉サービスの充実」(27.3%)と続いている。また、「女性リーダーなど人材育成」について、平成17年調査から6.1ポイント増加しているのが目立つ。

7. 知っている市の施策

【今回とこれまでの調査結果の比較】

問16 あなたは、那須塩原市で取り組んでいる下記の男女共同参画施策を知っていますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)



平成20年から実施している設問で、「みいな」(30.5%)と「男女共同参画セミナー」(7.0%)が前回調査より増加している。これに対し、他の施策は1割に満たず、施策の認知度に大きな差がある。